

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

2014年度 児童保護募金・誕生日記念募金による活動報告書

●募金件数:9,711件 ●募金金額:80,841,077円 ●募金期間:2013年10月1日～2014年9月30日

お母さんが健康な妊娠生活を送り、
安心して安全なお産ができ、生まれてきた命が健やかに育つために

皆さまからいただきました「児童保護募金」および「誕生日記念募金」により、
アフガニスタンとマラウイで、妊娠・出産にかかわるリスクからお母さんと赤ちゃんの命を守り、
子どもたちの健やかな成長を支えるための活動を行うことができました。
感謝とともに、ご報告いたします。



アフガニスタン

お母さんと赤ちゃんの命を守る
保健・医療従事者を支援



産前検診を受ける妊婦



小児検診を受ける子ども

支援地域の状況

アフガニスタンは、女性が妊娠・出産が原因で命を落とす危険性、生まれた赤ちゃんが生後28日以内に死亡する割合ともに、世界で最も深刻な国の一つです。背景には、長期間にわたる紛争により、医療施設が破壊され、多くの医師や看護師が国外に流出したため、現在でも十分な技術を持った医療従事者が不足しているという課題があります。アフガニスタンでは、宗教的・文化的な理由から、男性医師が女性を診察することができないため、お母さんと赤ちゃんの命を守るためには、女性の医療従事者の養成が急務です。ここ10年の間で、国際社会の支援により、国内の女性看護師・助産師の数は増え、妊産婦・新生児の死亡率も少しずつ改善してきています。より多くのお母さんと赤ちゃんの命を救い、健康状態を改善するために、さらに多くの助産師・看護師が求められています。

アフガニスタン西部地域ヘラート州では、州政府機関である保健科学院（以下、IHS）が、助産師・看護師の養成と再養成研修を担っています。しかし、予算不足などにより、3年ごとに実施されるべき再養成研修も、現在は不定期にしか行われておらず、現場の多くの助産師・看護師が、最新の知識や技術を持ち合わせていない状況です。また、IHSの助産師・看護師養成プログラムを受講する学生は、医療設備が比較的整っているヘラート市内の病院で臨床実習を行います。卒業後、実際に働くことになる地方では、医療設備や医師が絶対的に不足しています。受講生は卒業後に、地域の現状に即した、産前・産後検診などの総合的な母子保健サービスの臨床経験を独自に積んでいかなければならず、提供できる保健サービスの質の向上を阻むとともに、モチベーションの低下を招いています。

ワールド・ビジョン・ジャパン（以下、WVJ）では、皆さまからの募金とジャパン・プラットフォーム（JPF）の助成を受けて、アフガニスタン西部のヘラート州で、お母さんと赤ちゃんの命を守る保健・医療従事者を対象とした事業を行っています。2013年度にヘラートIHSの校舎を1棟建設したことに引き続き、2014年度は、ヘラート州とその周辺地域の保健・医療従事者が養成される環境を整備するため、3つの活動を実施しました。

1. 保健科学院 (IHS) の実習室機材の設置

2014年6月に新設された、臨床検査技師と薬剤師養成プログラムで使用する、実習室機材を設置しました。これにより、臨床検査技師や薬剤師を目指す学生たちが、国家の定める基準に沿った実習をできるようになりました。



WVJが供与した実習室機材

2. 助産師・看護師等の再養成研修と移動診療

現役の助産師、看護師、医師等を対象に医療知識と技術の再養成研修を行いました。研修は緊急産科ケア、感染症予防、対人コミュニケーション・カウンセリングなど多岐にわたりますが、実技を多く取り入れて実践的な内容にしました。研修で学んだ知識と技術を、助産師はより安全なお産のため、看護師や医師はより質の高い医療サービスを提供するため、臨床の場で生かしています。



感染症予防研修の様子

緊急産科ケア研修の様子

また、助産・看護学生を対象に、医療設備の整っていない地域での臨床実習を行いました。この活動は移動診療と呼ばれ、学生たちは実践的な妊産婦ケアや診察を通して、経済的に貧しい地域の妊産婦や患者たちと時間をかけて向き合い、彼らが卒業後、実際に従事する環境での経験を積むことができました。また、医療へのアクセスが困難な地域の住民たちが、地域の中で医療サービスを受けることができました。

移動診療により2014年7月から12月までの6か月間で、のべ376人の妊婦とのべ216人のお母さんが検診を受けることができました。また、のべ4,727人の患者が診察を受け

貧血症状、下痢症状、急性呼吸器感染症や一般的な風邪症状に対して治療薬の処方等医療サービスを受けることができました。



移動診療で診察を受ける乳児

3. 保健科学院 (IHS) の運営管理サポート

IHSが保健・医療従事者養成プログラムを運営管理するために必要な知識と技術のサポートを行いました。具体的には、IHSの管理部門の職員が、マネジメント研修、ファイリング・レポート作成や組織行動の研修を通して、IHSの運営をより良くしていくための組織マネジメントを学びました。

WVJはこれらの活動を通して、総合的な母子保健サービスの改善に取り組んできました。しかし現地のニーズは依然高く、まだまだ支援を必要としている人たちがいます。私たちは、引き続きアフガニスタンのお母さんが健康な妊娠生活を送り、安全なお産ができるよう、生まれてきた子どもたちが健やかに育つことができるよう活動を続けていきます。

移動診療に参加した助産学生タザさん

「私たち移動診療チームは、経済的に貧しい地域での産前産後検診を実施しています。この移動診療で多くの患者さんと接することで、いろいろな習慣や文化を知ることができます。この経験は、卒業して出身の村に帰って助産師として働く際にきっと役に立つと思います。移動診療は、地域の人が医療サービスを受けられるし、私たちも臨床実習を受けられるので一石二鳥なのです！

文化も宗教も違う日本の皆さんが、アフガニスタンを支援してくれることに感謝しています。この場を借りて、全てのお母さんと子どもたちを代表してお礼申し上げます。」



移動診療に参加し、乳児を診察する学生

担当:平井スタッフのコメント

皆さまからの募金により、無事に2014年度の事業を実施することができました。アフガニスタンに暮らす医療従事者は、必ずしも設備が整った病院で働けるわけではなく、地方の厳しい環境で日々奮闘しています。地方では設備も情報も限られていますが、WVJが実施した再養成研修で各地方から集まった同僚たちと情報交換をしたり、研修で新たな知識や技術を身に付けることができ、モチベーションを高めて、またそれぞれのクリニックに戻っていきました。移動診療に参加した学生たちも、彼女たちが将来従事するような、経済的に貧しく医療設備が整っていない地域の人たちと時間をかけて向き合い、助産師や看護師になる決意を新たにしています。きっと彼らがアフガニスタンの子どもたちの健やかな成長をサポートしてってくれることと思います。

助産学生のタザさんから、募金をしてくださった日本の方たちにお礼のメッセージが届いていますが、私からもみなさまに心から感謝いたします。遠いアフガニスタンの人たちの事を忘れていてくださり、本当にありがとうございます



WVJ平井スタッフ(右から2人目) 中村スタッフ(左から2人目)とWVアフガニスタンのスタッフ

マラウイ

お母さんが安心して安全なお産ができる環境を整備

支援地域の状況

マラウイの首都リロングウェから約100km離れた中部に位置し、山岳地帯が大半を占めるンチシ県(人口237,000人)は、マラウイの26県の中でも5番目に貧困率が高く、人口の76%以上が厳しい貧困の中で生活しています。政府の保健医療サービスも十分に行き届かず、地域の人々、特に子どもや妊産婦の健康状態が脅かされています。

ンチシ県には200床の県立病院が1つと保健センターが11箇所ありますが、電気・水道、また必要最低限の医療機器も揃っていない施設が大半で、産科棟も不足しています。山あいの道のりを遠く離れた自宅からやって来る妊婦や付添人が、施設の近くで出産の時を待つための寝泊りできる待機所も不足しています。また、緊急搬送手段がないために、分娩中に異常が起きて、より高度の医療設備へ搬送する必要があるがあっても、対応できないケースが多く発生しています。

さらに、自宅出産を勧める伝統的な慣習が根強く、健康な妊娠生活を送るための産前・産後検診、および、施設での安全なお産の必要性が広く理解されていません。

このような背景から医療施設で安全なお産ができる女性が限られ、多くの女性が出産時また出産後の合併症により命を落としています。



ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

WVJはンチシ県で、一人でも多くのお母さんが安心して安全なお産ができるようになるために、皆さまからの募金と外務省日本NGO連携無償資金協力により、2013年3月から、医療施設・設備の改善と拡充、および、住民への啓発活動を行っています。具体的には、県内の医療施設で適切な産科ケアを実施することができるよう、産科棟、および、妊婦とその付添人の待機所の建設と、安全なお産に必要な医療器材、電気・水道設備の設置を進めています。また、妊婦だけでなく地域住民全体を対象に、母子保健についての知識や医療施設で出産することの必要性を普及する活動を行い、安全なお産を推進しています。



出産を待っているお母さん(左)とその付添人

2014年度は、2つの保健センターに産科棟を建設するとともに必要な設備や器具を整備し、病院と11の保健センターに緊急事態に対応できるよう無線システムを設置しました。また、施設での出産を促すポスターを作成し、病院と保健センターに配布するとともに、住民を対象とした啓発活動を行いました。

今年度は、3つの保健センターで妊産婦と付添人が出産を待つための待機所の建設を、2つの保健センターで水道設備の設置を進めています。また、医療スタッフを通して、地域の人々に母子保健についての知識の普及を行っています。今後はさらにもう1つの保健センターで待機所を建設するとともに、1つの保健センターに太陽光発電のためのソーラーパネルを設置する予定です。



待機所の完成を待ちわびているお母さんたち

待機所で出産を待つユニスさん(26歳)

「私の名前はユニス(26歳)です。現在妊娠8カ月で、これから出産までの間、新しく建設された待機所で過ごします。これまでも幸いなことに保健センターで出産しましたが、出産まで待機する場所もなく、保健センターの外に敷物を敷いて寝ていました。でも、ワールド・ビジョンが産科棟の隣にトイレやシャワーが完備された待機所を建設してくれたので、これからはこの建物で安心して出産の日まで待つことができます。まだ待機所が無い保健センターにも、待機所を建設していると聞きました。一人でも多くのお母さんが心穏やかに出産できるようになればと願っています」



ユニスさん

担当: 藪崎スタッフのコメント

皆さまの募金により事業を進められていることを感謝いたします。今まで、産科棟が無かった地域に産科棟を建てることができ、そして、その産科棟で出産するお母さんが増えるにつれて、地域の住民の間でも、医療施設で出産する重要性の理解が浸透してきたように感じています。まだまだやるべきことが多く残されていますが、さらに多くのお母さんに安心して出産してもらうことができ、赤ちゃんが元気に生まれてくることできるよう、引き続き地域の住民の皆さまやマラウイ政府と協力して、事業を進めていきたいと思っております。



支援で建設された産科棟で出産したお母さんと生まれた赤ちゃんを抱く藪崎スタッフ(左)

●募金についての問い合わせ先 特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F
TEL:03-5334-5351 FAX:03-5334-5359 Email:dservice@worldvision.or.jp

ワールド・ビジョンは、キリスト教精神に基づいて開発援助、緊急人道支援、アドボカシー(政府や市民への働きかけ)を行う国際NGOです